



○イノシシの捕獲頭数について【2022年度第1四半期速報】

県内の有害鳥獣捕獲及び指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲されたイノシシの頭数について、2022年度第1四半期分（4月から6月まで）がとりまとまりました（表）。

第1四半期の県全体の捕獲頭数について、2022年度（速報値）は920頭と、前年度（速報値）の約1.6倍でした。地域別に見ても、いずれの地域も増加しています。前年度比で最も増加率が大きかった地域は新城設楽地域の約3倍で、尾張地域については第1四半期の捕獲頭数が直近5年度で最も多くなっています（図）。

表 直近3年度の地域ごとの第1四半期における野生イノシシの捕獲頭数（頭）

	尾張地域	西三河地域	東三河地域	新城設楽地域	計
2022年度【速報】	151	540	139	90	920
2021年度【速報】	71	444	47	29	591
2020年度	88	247	132	80	547

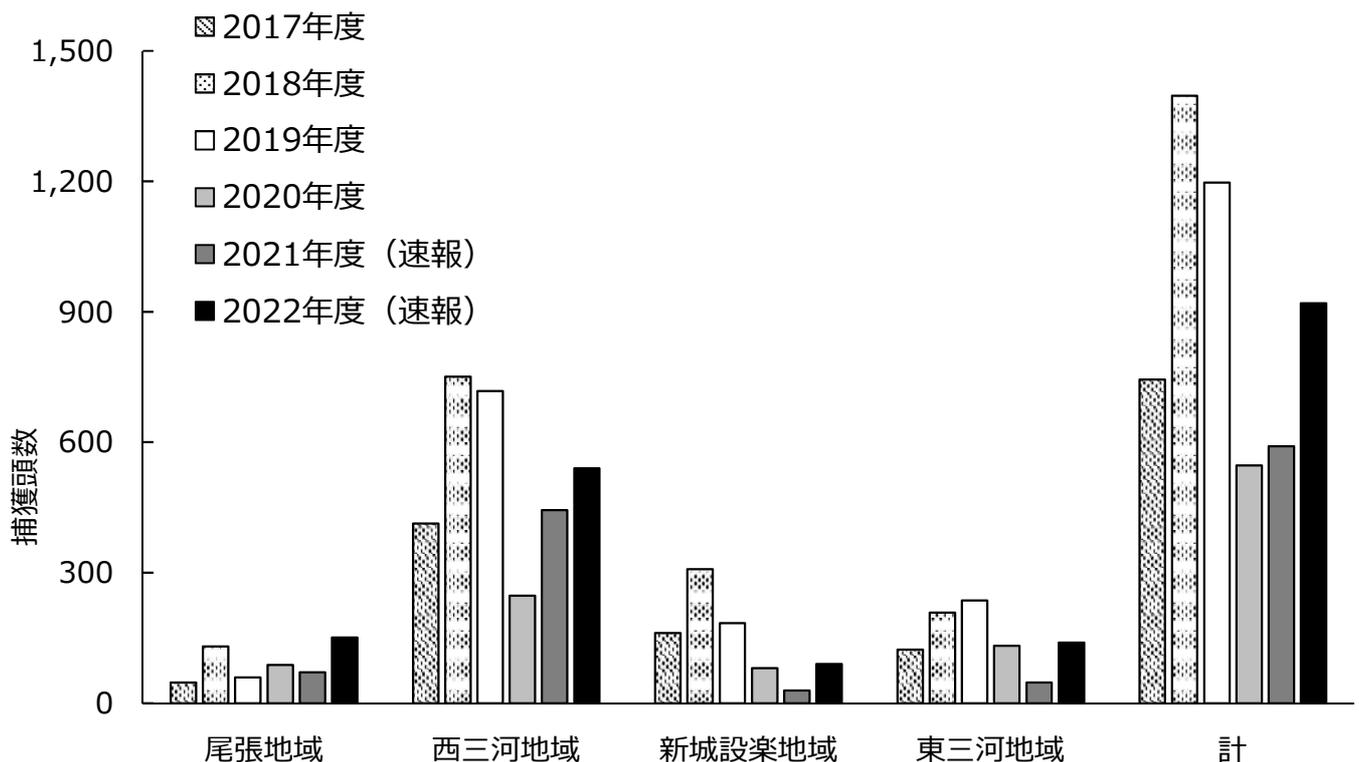
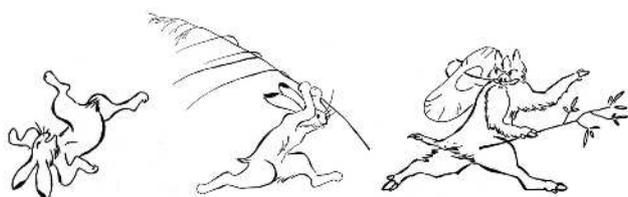


図 野生イノシシの捕獲頭数の推移（第1四半期）

(NK)





○イノシシにワクチンを食べさせろ！ その3 ～後期散布に向けて～

9月から野生イノシシへの豚熱経口ワクチンの散布が始まりました。以前のあいち鳥獣通信（2022年5月19日発行）には、前期散布の現地試験を掲載しましたが、今回はその結果と、新規地点調査について紹介します。

①前期散布の現地試験 ～散布方法あれこれ～

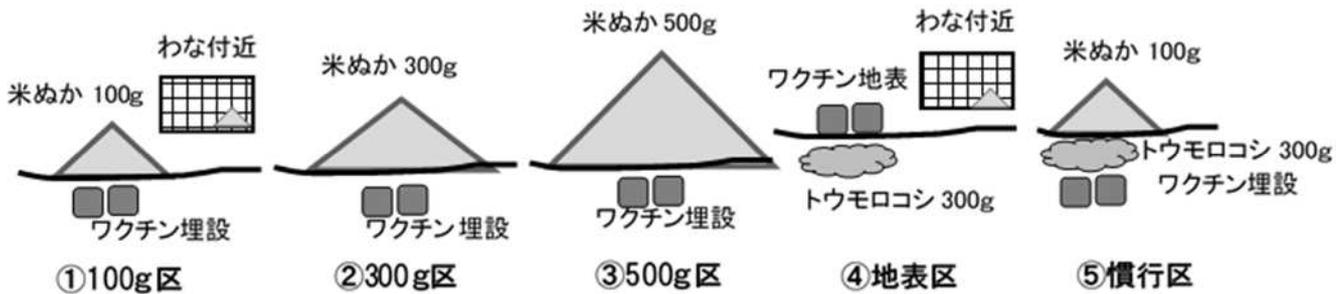


図1 2022年度前期の散布試験区

前期散布では、全726地点に図1で示す5つの試験区を設定し、できる範囲でイノ対職員が回収調査を行いました。室員11名が15回出動し、193地点の調査ができました（うち、脱輪1回）。各区の傾向は表1のとおりでした。

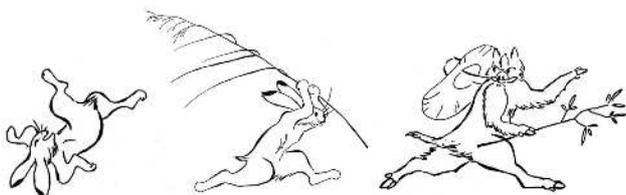
表1 試験区の傾向一覧

試験区	イノシシ誘引能力	イノシシ食べさせる	他動物食べる	継続	復帰
100g区	×	×	◎	△	×
300g区	○	○	○	○	○
500g区	△	○	△	△	○
地表区	△	△	◎	△	×
慣行区	◎	△	○	○	◎

イノシシ誘引能力: 掘り返しありと、ワクチン摂取が1つでもありの地点が多いと○
 イノシシ食べさせる: ワクチン摂取ありの地点の、平均摂取ワクチン数が多いと○。
 他動物食べる: 小動物摂取とロストの平均ワクチン数が多いと○。
 継続: 前回イノシシが摂取していた地点で、今回もイノシシが摂取していれば○。
 復帰: 前回イノシシが摂取していない地点で、今回イノシシが摂取していれば○。

- ・100g区は、わなに近く誘引されている個体の摂食も期待できない散々な結果でした。
- ・300g区は、誘引能力も食べさせる能力も高い、安定した結果でした。
- ・500g区は、イノシシに食べさせる能力は高いが、300g区との違いは認められませんでした。カラスやシカ等が散らかしやすいという結果もありました。
- ・地表区は、想定したとおり他の動物に食べられやすいことがわかりました。
- ・慣行区は、イノシシの誘引能力が高く、安定していました。

現地試験の結果、米ぬか300gを盛る方法が適すると判断されたため、後期はこの方法を基本に散布します。





② 散布地点の追加

前期散布と後期散布の間に新規地点調査を行い、養豚場周辺と、豚熱陽性イノシシ確認地点周辺に、新たに約 100 地点追加しました。

新規地点調査では、公用車(バン)で山道を走りイノシシの痕跡を調査していましたが、豊田市や岡崎市の西側は散布地点に困らないほどイノシシの痕跡が多く、豚熱発生当初減っていたイノシシが2年で復活したのだなど実感しました。なお、今回の地点調査ではおかげさまで交通事故には見舞われませんでした。

新規地点で代表的な地域は図2のとおりです。岐阜県の県境付近で陽性個体が見つかったので、瀬戸市から豊田市の山林にラインを引くイメージで散布地点を設定しました。

後期散布でもまた現地試験を行う予定なので、良い結果が出たら紹介します。

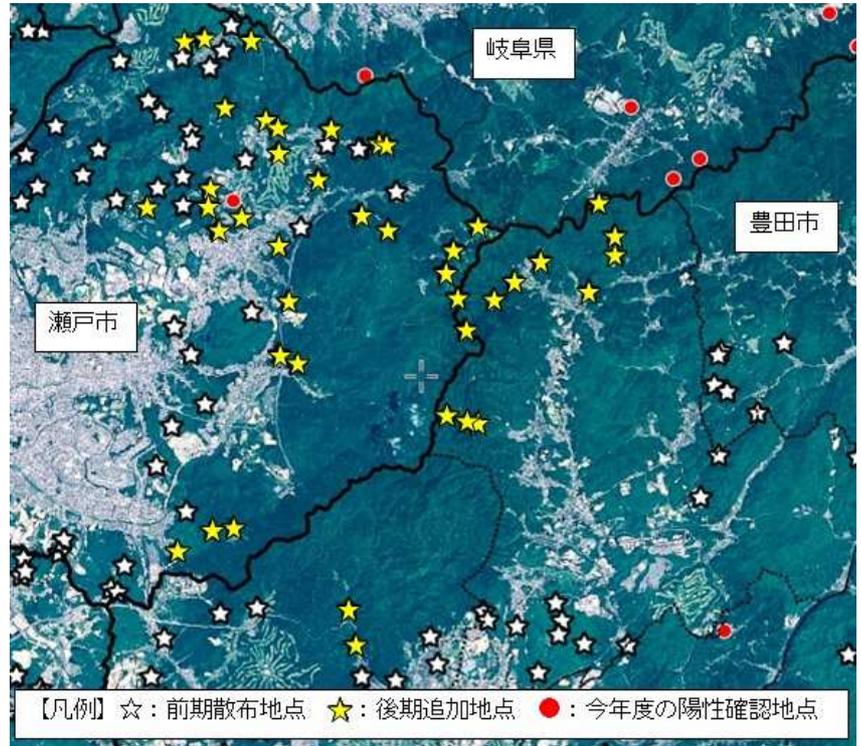


図2 経口ワクチン散布地点について

(A S)

予告

～市町村の方へ～

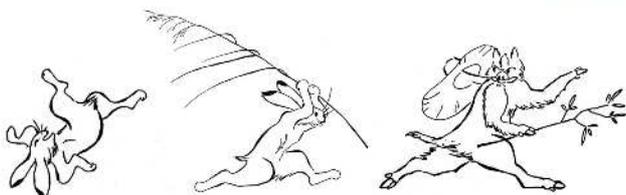
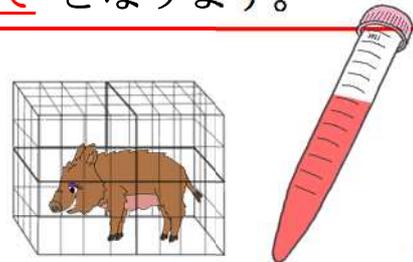
令和4年度野生イノシシ血液等検査促進業務についてのお知らせ

2022年11月1日以降

検体採取できる上限頭数が捕獲従事者1名につき
ふた月に1頭まで となります。

多くの検体の送付にご協力いただいております、ありがとうございます。

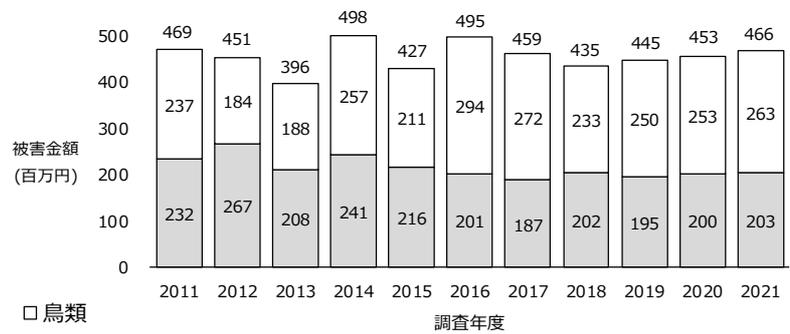
検査の受け付けをできる数に限りがあるため制限内容を変更します。市町村の方には、捕獲団体への調整など引き続きご協力をお願いします。





○愛知県における野生鳥獣による農作物被害 ～2021 年度被害状況調査の結果～

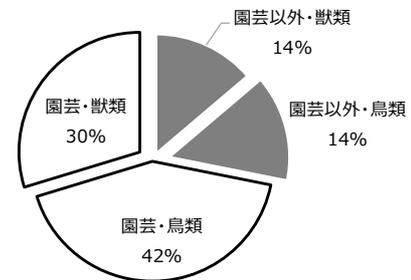
2021 年度の野生鳥獣による農作物被害状況がまとまりましたので、ご報告します。調査に当たり、各市町村には多大なるご協力をたまわり、ありがとうございました。



□ 鳥類
□ 獣類

愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)

愛知県内で鳥獣被害防止特措法に基づく総合対策が開始された2011年度以降、被害金額は4億5千万円前後で推移しています。2016年度以降、鳥による被害金額が獣を上回っており、都道府県別でも常に上位にあります(2020年度は全国第2位)。



鳥類・獣類、園芸・園芸以外の被害金額の比率 (2021年度)

園芸作物の被害金額が大きく全体の72%、園芸作物の鳥害が全体の42%を占めました。同様の傾向は被害状況調査の開始時点(2001年度)から続いており、愛知県の農業生産の特徴を反映していると考えられます。

(TO)

野生イノシシ対策室 Instagram 公式アカウント、始めました

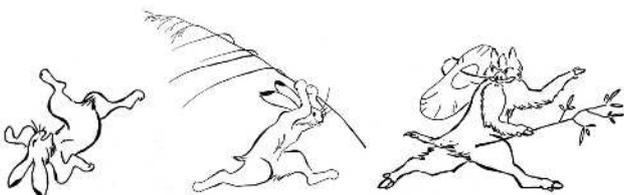
8月某日、愛知県野生イノシシ対策室の Instagram 公式アカウントを立ち上げました！

このアカウントでは、野生イノシシの豚熱対策や農作物の鳥獣害対策などについて情報発信していますので、是非フォローしてくださいね。



(NS)

愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726





野生イノシシ対策室マスコットキャラクター
いのべえ

2022秋 いのべえシャツできました!

秋も
さすがの繁殖力だべえ

ついに、いのべえのシャツが完成しました!

ポロシャツとTシャツを作成し、カラーバリエーションも豊富です。

刺繍ならではの温かみと高級感があります。

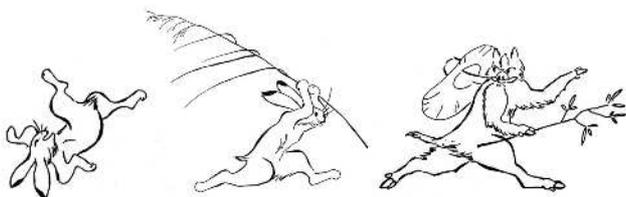
関係所属の県職員などを対象に購入希望を募ったところ、想定を上回る数となり、嬉しい限りです。



納品時は、まるでアパレル業者のような光景が広がる部屋の様子



いのべえシャツを着て、関係者で力を合わせて鳥獣対策、豚熱まん延防止に取り組む活動を推進していきます!



(NM)
愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ Tel.052-954-6726



○農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー ～愛知県から2名が新規登録されました～

「農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー」とは、野生鳥獣による農作物被害の防止に関する専門的な知識及び経験を有し、地域における被害防止対策の実施に際し、助言等を行うことができる者を農林水産省に登録し、地域の要請に応じて紹介する制度です。詳細はウェブサイト（下記アドレス）をご確認ください。

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h_adviser/index.html

今年度、愛知県から以下の2名が新たに登録されました。対策の検討、研修会等にお声かけいただければさいわい입니다。

農業総合試験場普及戦略部（農業革新支援専門員）
同、環境基盤研究部（研究員）

林 高弘
西村 光由

○鳥獣被害対策の基本と有害鳥獣捕獲の課題(その3)

寄せない対策“生息環境管理”

前号(vol. 2, No. 4)で述べたとおり、農作物の野生鳥獣被害を軽減するためには、野生鳥獣を「寄せない」「入れない」「捕まえる」を組み合わせた総合的な対策(対策の三本柱)が重要です。今回は、野生鳥獣を寄せない対策である生息環境管理について解説します。

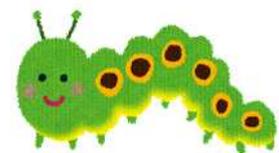
☆生息環境管理が最優先

野生鳥獣が寄りつきやすい状態で侵入防止と捕獲を実施しても、労多くして功少なしです。猟友会にわなを仕掛けてもらえばなんとかなるだろうと考えるのは完全な誤りです。わなを仕掛けて餌で誘引すると、被害が助長される恐れすらあります。田畑を柵で囲っても、野生獣が安心して柵のすぐそばに近づくことができる状態を放置すれば柵を突破される危険が高くなります。生息環境管理は最優先の対策です。

☆対策は地域ぐるみで

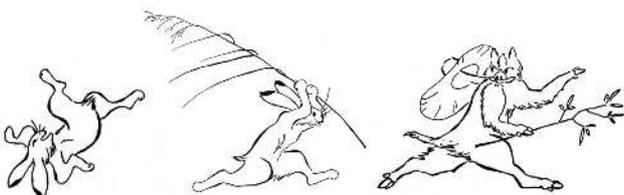
畑にヨトウムシやアブラムシが発生したら、耕作者が自分で防除するでしょう。基本的には、野生鳥獣の場合も同じです。しかし、野生鳥獣は害虫と違って…

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 身体が大きく力が強い ② 学習能力があり、意図的に行動する ③ 農薬を使って駆除することができない |
|---|



なので、個人の対策では限界があるのです。

市町村役場、県の農業普及指導センターなどの力も借りながら、地域で力を合わせて対策を進めましょう。





☆現状把握と情報共有

地域ぐるみで活動するには、現状を把握し情報共有することが第一歩です。

ぜひとも、**勉強会と集落環境点検**を実施しましょう。

雅ねえこと井上雅央氏も、「鳥獣対策の相談を受けたら、まずは勉強会をやりましょうと提案する」とおっしゃっています。勉強会こそが、地域ぐるみ鳥獣対策のスタートラインです。

問題点をより入念に洗い出すためには、集落環境点検が効果的です。集落を歩いて点検し、以下に示す場所を各自でチェックしながら、自由に意見交換をしましょう。その後、各自の点検結果を持ち寄って「鳥獣ハザードマップ」を作り、結果を可視化することで、確実に情報共有できます。

- ・農作物に鳥獣被害が発生しているほ場
- ・野生鳥獣の痕跡(イノシシの掘り返しなど)
- ・野生鳥獣の隠れ家や侵入経路になりそうな地点

集落環境点検は、地域の魅力を再発見する機会にもなります。子どもたちも交えた「宝探しイベント」と同時開催とするなど、楽しくやるのが前向きに取り組むための秘訣です。

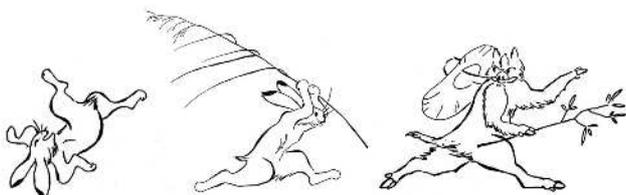


集落環境点検の様子(左：集落を歩いて点検する、右：結果を持ち寄ってマップを作成する)

☆食事と休息をさせない

生息環境管理をひとことで言い表すならば、「野生鳥獣に食事と休息をさせないこと」です。収穫残さの処分やこまめな草刈りなど、個人での取組が最低限の対策になります。その上で、以下に示すような地域ぐるみの活動を検討しましょう。

- ・休耕地の保全管理(刈り払い、耕うん、湛水)
- ・水路沿いの刈り払いと清掃
- ・放任果樹の管理(果実のもぎ取り、せん定、場合によっては伐採)
- ・カラス、ニホンザルの追い払い活動





生息環境管理の具体例（休耕地をきれいに刈り払うと… イノシシなどの野生獣は居心地が悪い）

☆参考文献・資料

- ・福与徳文．集落連携による耕作放棄地の再生．農業農村工学会誌 76．2008
- ・福与徳文．地域社会の機能と再生：理論と実践．農業 1665 号．2020
- ・井上雅央．これならできる獣害対策．農山漁村文化協会．2008
- ・武山絵美、九鬼康彰．野生動物の生息域と農地との境界空間の設計指針．農村計画学会誌 29．2010
- ・寺本憲之．鳥獣害問題解決マニュアル．古今書院．2018
- ・山端直人．地域社会のための総合的な獣害対策．平成 29 年度地域リーダー育成研修（集落）．2017

(TO)

